


【件名】	中川護岸耐震補強工事（その52）	【事務所名】	江東治水事務所	
【工事場所】	東京都葛飾区青戸二丁目地内	【受注者名】	植木・池田建設共同企業体	
【工期】	令和3年12月13日から令和5年2月28日まで	【主たる技術者名】	監理技術者 関 雅文	

【工事概要】

本工事は、中川において河川内の地盤強化等による耐震対策を行ったものである。

施工延長 126.1m

地盤改良工 深層混合処理工（φ1600）：679本

高圧噴射攪拌工（φ700）：310本

笠コンクリート工 123.0m、鋼管矢板工 94本

【表彰理由】（※発注者側評価）

現場代理人及び監理技術者は、豊富な知識・経験を本現場において十分発揮した。ICT施工を複数の工種において採用し、現場の効率化、生産性の向上により工期延伸することなく工事を完了した。さらにVR体験による作業員の安全教育を実施し、現場リスクの抽出及び対策を確実に実行し、技術者育成に努めた。現場周辺の清掃活動を積極的に行うなど地元住民との良好な関係を構築した。



施工前



施工後

【受注者の声】

- ◇ 苦労した点
施工箇所が比較的硬質な地盤であったため、特に地盤改良工における工程遅延が発生しました。そのため当初工期内での完成に向けて、各工種の施工順序や施工方法に工程短縮の工夫が必要でした。
- ◇ 特に工夫した点
これまで同工種の実績があり施工計画が確立されていましたが、安全管理や施工にICT技術を取り入れ、更なる生産性・品質向上や現場特有の安全対策に対する取り組みを行った点です。
- ◇ 現場で得られたやりがいや達成感
船舶航行や水上作業および橋梁近接作業など特有の安全管理に気を遣う現場でした。そのため、第三者災害を含め現場を無事故・無災害で完成することが出来たことに達成感を得ることができました。
- ◇ 建設業の将来を担う若手技術者や学生に対し伝えたいこと
社会資本整備への需要の高まりや、ICT技術の活用促進により建設技術は日々進歩しています。社会への貢献や新技術に対する挑戦を必要とされる建設業界はとても魅力があり、やりがいのある仕事だと感じています。



橋梁近接時における地盤改良作業状況